

お年玉

『辰夫よ、悪りいが金貸^{かねか}してエなア』

一昨年亡くなつた母が

初夢に出てきた

粗相^{そそう}したときのようなはにかみで

『ちいとでええきになア』

『ばアやんは、もうアツチの世界じやきに、

金の工面^{くめん}はいらんぞな、心配せんでもええ』

私には母の金使いの先は読めていた

生前、母は正月のしきたりにしていたのだ

『正月きたけんなア、茂美に正子や春代の孫
たちにのう』

『わかつた、わかつた、あんしんせんかい。

ワシがみんなに言うとかくわい。ばアやんが遠

い処から来てくれたいうて渡しておくわ』

『ほんまに、だんだん・・・』

言うて、フツと消えた

(だんだん＝有難うの意)